

# 企業景況調査報告書

(令和4年7～9月期)

## < 目次 >

質問1 調査の概要・結果概要	.....	1
質問2 直面している経営上の問題点	.....	2
質問3 設備投資について	.....	3
質問4 意見等自由記載欄	.....	4
DI集計結果・分布	.....	5
調査票様式	.....	6

倉吉商工会議所

倉吉市明治町 1037-11

TEL 0858-22-2191

FAX 0858-22-2193

Email [cci3103@kurayoshi-cci.or.jp](mailto:cci3103@kurayoshi-cci.or.jp)

# 倉吉商工会議所企業景況調査報告書（2022年7～9月）

## 調査対象企業

倉吉市内の商工会議所会員企業 100社

（建設業21社、製造業19社、卸売業11社、小売業22社、サービス業21社、その他6社）

## 調査方法

各事業所宛にFAXにて調査票を送付し、FAXにて返信依頼。必要に応じて訪問回収。

## 調査時期

令和4年10月上旬～令和4年10月中旬

## 回収状況

92社（回収率92%） ※前回（4～6月）91社

（建設業20社、製造業19社、卸売業10社、小売業18社、サービス業20社、その他5社）

## 全業種の業況DIは今期も下降、来期はわずかに上昇する見通し

### <今期の状況>（5ページ表参照）

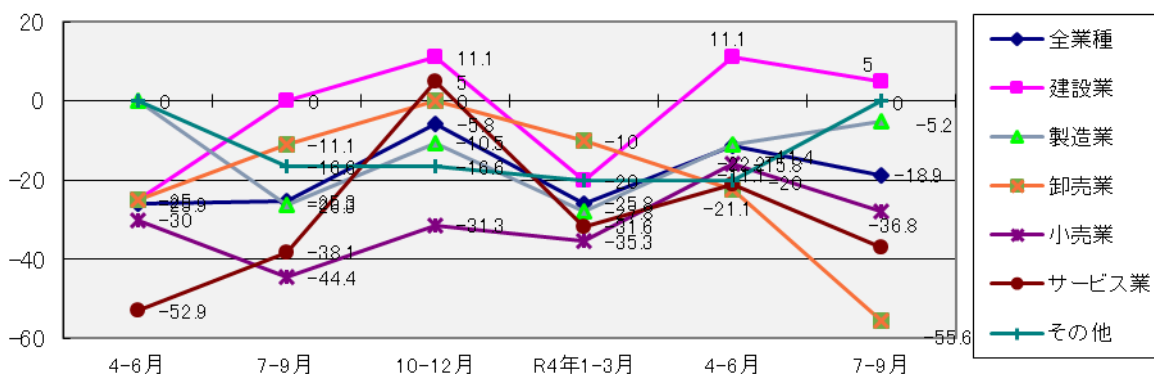
今期の全業種の業況DIは、前年同期比で前期の▲11.4から7.5ポイント下降し、▲18.9となった。業種別に見ると、それぞれ建設業は5（前期11.1）、製造業は▲5.2（前期▲11.1）、卸売業は▲55.6（前期▲22.2）、小売業は▲27.7（前期▲15.8）、サービス業は▲36.8（前期▲21.1）、その他の業種は0（前期▲20.0）で、2業種で上昇、4業種で下降となっている。

### <来期の見通し>（5ページ表参照）

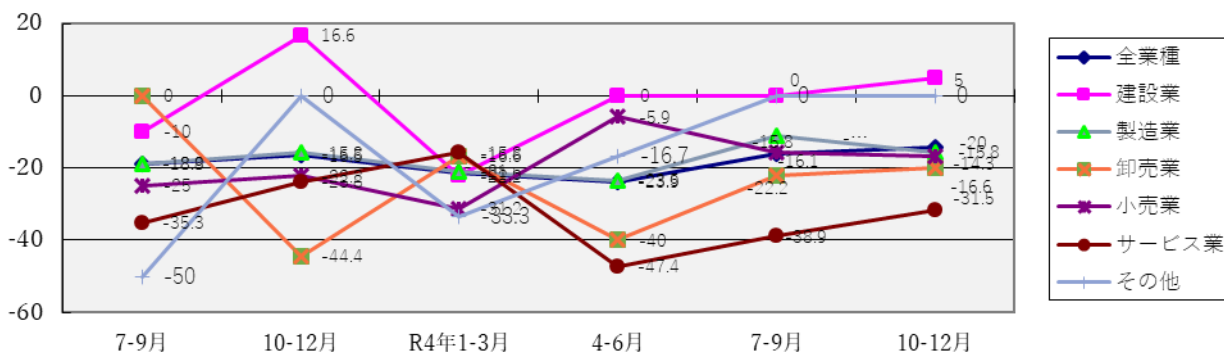
来期の見通し（2022年10～12月）では、全業種のDI値は前期の▲16.1から上昇し、▲14.3となった。業種別に見ると製造業は▲15.8（前期▲11.1）、小売業は▲16.6（前期▲15.8）と下降する見通しとなった。一方で、建設業は5（前期0）、卸売業は▲20（前期▲22.2）、サービス業は▲31.5（前期▲38.9）と3業種で上昇する見通しとなった。また、その他の業種は0（前期0）で横ばいの見込みである。今期の状況は大半の業種で下降しており、来期はわずかに上昇する見通しを示す結果となった。経営上における課題としては、「原材料・仕入価格上昇」が前回に引き続き全業種で上位に挙げられた。また、小売業とサービス業では「人手不足」が前回よりも上位に挙がる結果となった。

### <業況判断DIの推移> ※今期のDI値集計結果についてはP5をご参照下さい。

#### (1) 今期の状況 <業種別>



#### (2) 来期の見通し<業種別>



## 質問2 直面している経営上の問題点（上位3点を回答）

- 01 競争激化    02 消費・需要の停滞    03 売上・受注減少    04 売上・受注単価低下  
 05 原材料・仕入価格上昇    06 原材料・在庫不足    07 原材料・在庫過剰  
 08 店舗・生産設備不足・老朽化    09 店舗・生産設備過剰    10 経費の増加    11 人手不足  
 12 人手過剰    13 利益率低下    14 代金回収難    15 資金繰り難    16 新分野進出  
 17 その他:具体的に( )

〔上位項目〕

※（ ）内は件数

分類		1位	2位	3位
全業種	当期	原材料・仕入価格上昇 (57)	人手不足 (33)	売上・受注減少 (31)
	前期	原材料・仕入価格上昇 (56)	消費・需要の停滞 (37)	売上・受注減少 (33)
建設業	当期	原材料・仕入価格上昇 (18)	人手不足 (11)	利益率低下 (8)
	前期	原材料・仕入価格上昇 (15)	人手不足 (9)	利益率低下 (8)
製造業	当期	原材料・仕入価格上昇 (15)	店舗・生産設備不足・老朽化 (8)	経費の増加 (6)
	前期	原材料・仕入価格上昇 (15)	売上・受注減少 (7) 経費の増加 (7)	店舗・生産設備不足・老朽化 (5)
卸売業	当期	原材料・仕入価格上昇 (7)	消費・需要の停滞 (6)	売上・受注減少 (5)
	前期	売上・受注減少 (7)	消費・需要の停滞 (5) 原材料・仕入価格上昇 (5)	経費の増加 (10)
小売業	当期	売上・受注減少 (9)	消費・需要の停滞 (6) 原材料・仕入価格上昇 (6) 利益率低下 (6)	人手不足 (5)
	前期	消費・需要の停滞 (14)	原材料・仕入価格上昇 (8)	売上・受注減少 (7)
サービス業	当期	原材料・仕入価格上昇 (9)	人手不足 (8)	売上・受注減少 (7)
	前期	原材料・仕入価格上昇 (11)	消費・需要の停滞 (7)	競争激化 (6) 売上・受注減少 (6) 人手不足 (6)
その他	当期	売上・受注減少 (3)	原材料・仕入価格上昇 (2) 経費の増加 (2)	競争激化 (1) 消費・需要の停滞 (1) 売上・受注単価低下 (1) 人手不足 (1)
	前期	経費の増加 (4)	消費・需要の停滞 (2) 原材料・仕入価格上昇 (2)	競争激化 (1) 売上・受注減少 (1) 売上・受注単価低下 (1) 人手不足 (1) 新分野進出 (1) その他 (1)

17 その他

・コロナの影響

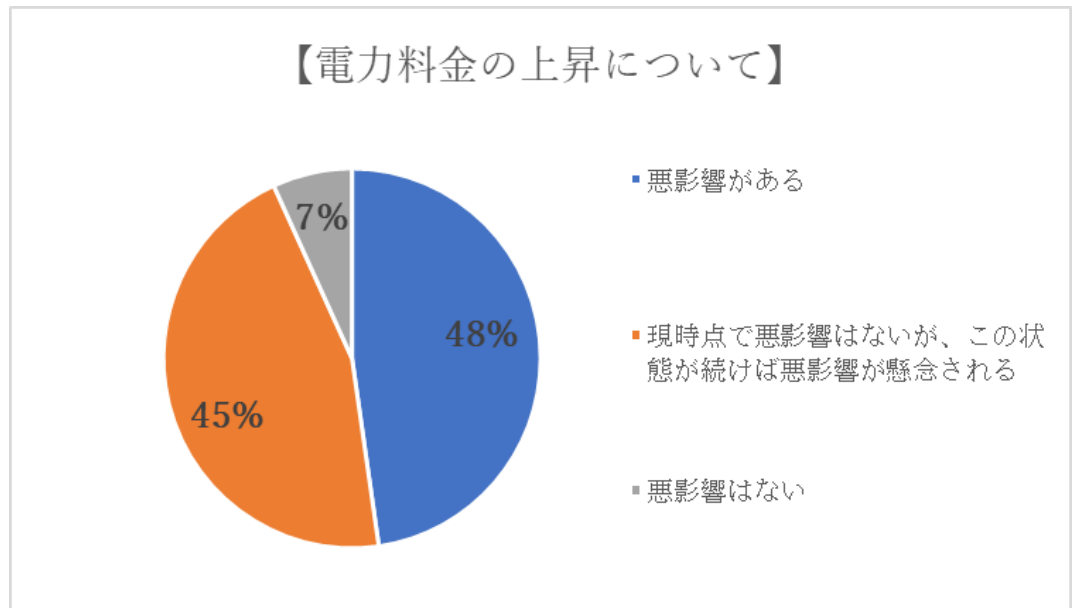
### 質問3 電力料金について

燃料価格の高騰や再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）賦課金の上昇等により、電力料金は震災前の水準から4割以上高くなっている。電力料金の上昇による影響や対応策について調査した。

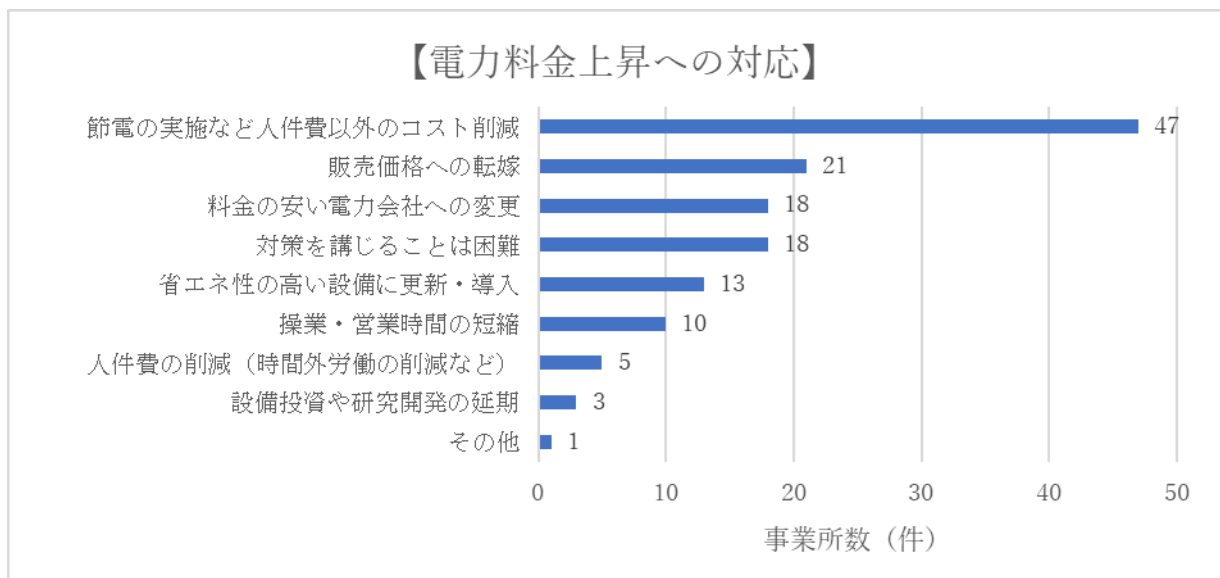
#### 全体の9割を超える事業者が電気料金の上昇による悪影響を懸念している

電力料金の上昇が事業に与える影響については、「悪影響がある」がおよそ半数と最も多く、次いで「現時点で悪影響はないが、この状態が続けば悪影響が懸念される」も4割余りと多く、9割以上の事業所が電力料金上昇による事業への悪影響を懸念していることを示す結果となった。

業種別に見ると、「悪影響がある」と回答した事業所の割合が最も多かったのは製造業で、製造業全体の81%となり、次いでサービス業、卸売業と続き、製造業とサービス業の電力への依存度の高さが窺える結果となった。



一方、電力料金上昇への対応としては、「節電の実施など人件費以外のコスト削減」が最も多く、次いで「販売価格への転嫁」、「料金の安い電力会社への変更」と続いている。また、「対策を講じることは困難」との回答も上位であり、電力料金の上昇を受け入れざるを得ない現状を示す結果となった。また、業種別に見ても全業種で「節電の実施など人件費以外のコスト削減」が最も多くなっており、企業努力が窺える結果となった。



また、「販売価格への転嫁」については、すぐには反映できないという声も上がっており、今後利益率の低下を懸念するコメントも多かった。さらに、節電に取り組む意欲の一方で、業務に必要な電力の節電までは実質不可能であり、どの程度節電できるのか不安の声もあった。

#### 質問4 現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望について

##### 【建設業】

- ・資材の値上げ、仕入難等値上げをすると今後受注がどうなるのか心配なことばかりです。

##### 【製造業】

- ・当社の主力商品である別注窓アキ封筒がコロナワクチン通知用（役所）で特需がありました。来年はそれもなくなるので減収になると予想します。
- ・秋～冬にかけてコロナが爆発しなければ明るい兆しが見えるのかも。
- ・相変わらず仕入高の高い状況に苦勞しています。国・県・市より補助を頂戴して加工機導入及びその加工棟を建築中です。これを有効に利用し、経費、仕入の削減を目標にしています。

##### 【卸売業】

- ・何でも値上げラッシュなので、今後どう変化していくのか心配です。
- ・燃料、電気費の高騰抑制対策

##### 【小売業】

- ・制服販売をしていますが、制服業界は今学校の制服の変化の波が押し寄せていて、いつ変わるかわからない局面に立たされている。在庫の調整が難しい。
- ・度重なる値上げに、景気の停滞感を強く感じる。
- ・小売業も地域のためにも倉吉でがんばっておりますので、そろそろイベントなどを開催できるようにお力添えをお願いします。
- ・消費マインドがUPするように「地域クーポン」など考えていただきたいが、その際は「鳥取県（または倉吉市）に本社を置く企業」に限定してほしい。消費者に便利のように取扱店を設定すれば、おそらく県外のドラッグストアに根こそぎ税金（補助金）が持っていけます。
- ・仕入れ価格の上昇

##### 【サービス業】

- ・コロナで売上激減、コロナ特別貸付の返済が始まる、返済年の延長が必要。
- ・円安の影響、中部は農産物が多い、地産地消促進。
- ・大手ドラッグストアの進出により、小売の部分の消費が減っている。企業誘致で街が活気づいても地場の企業はキツくなる一方である。
- ・子育て中のスタッフが多い中、未満児の子供の預け場所がなく、産休後の復活がしにくい状況は相変わらず変わりません。女性がもっと働きやすい環境を作っていただきたいものです。
- ・旅割支援後の再コロナ禍、第8、9波と心配がある。
- ・消費税減税、インボイス中止
- ・コスト高が原因の物価上昇と不景気になっているように思います。思い切った財政出動等の経済対策をお願いしたいと思っております。尚、不景気での失業者増加は私たちにとって短期的には、必ずしも悪いことではないと思っております。しかし、長期的続く場合にはものすごく悪いことであると心配しております。

D I 集 計( 前年同期比=2021年7~9月期、来期の見通し=2022年10~12月期)

【製造業・非製造業別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.3	-4.5	26.4	25.0	-18.5	-26.4
製造業	15.7	-5.6	52.6	38.9	-15.8	-33.3
非製造業	-9.6	-4.3	19.4	21.4	-19.2	-24.7

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-16.5	-12.1	-1.1	-1.1	-8.8	6.6
製造業	-5.3	-11.1	10.5	11.1	-5.2	21.1
非製造業	-19.4	-12.4	-4.2	-4.2	-9.7	2.8

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-18.7	-14.1
製造業	-5.2	-15.8
非製造業	-22.2	-13.7

【業種別】

	1. 売上高		2. 売上単価		3. 収益状況	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-4.3	-4.5	26.4	25.0	-18.5	-26.4
建設業	15.0	15.7	25.0	15.8	5.0	-5.0
製造業	15.7	-5.6	52.6	38.9	-15.8	-33.3
卸売業	-40.0	-10.0	40.0	60.0	-50.0	-30.0
小売業	-27.7	-29.4	11.1	5.8	-22.2	-33.3
サービス業	0.0	5.0	21.0	26.3	-30.0	-35.0
その他	-20.0	-20.0	-20.0	0.0	0.0	-20.0
非製造業	-9.6	-4.3	19.4	21.4	-19.2	-24.7

	4. 資金繰り		5. 借入難度		6. 雇用人員	
	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し	前年同期比	来期の見通し
全業種	-16.5	-12.1	-1.1	-1.1	-8.8	6.6
建設業	-15.0	-15.0	0.0	0.0	-5.0	10.0
製造業	-5.3	-11.1	10.5	11.1	-5.2	21.1
卸売業	-10.0	-10.0	0.0	0.0	-10.0	0.0
小売業	-23.5	0.0	-11.8	-11.1	-5.9	0.0
サービス業	-30.0	-30.0	-5.0	-5.0	-15.0	5.0
その他	0.0	20.0	0.0	0.0	-20.0	-20.0
非製造業	-19.4	-12.4	-4.2	-4.2	-9.7	2.8

	7. 業況判断	
	前年同期比	来期の見通し
全業種	-18.7	-14.1
建設業	5.0	5.0
製造業	-5.2	-15.8
卸売業	-55.6	-20.0
小売業	-27.7	-16.6
サービス業	-35.0	-30.0
その他	0.0	0.0
非製造業	-22.2	-13.7

※DI値

売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表します。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示します。

したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するものです。DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

倉吉商工会議所企業景況調査票(2022年7~9月期)

調査元: 倉吉商工会議所 TEL:22-2191

FAX:22-2193

【質問1】前年同期と比較した今期(2022年7~9月)の状況と、今期と比較した来期(2022年10~12月)の見通しについて、最も近いものに○印をお付けください。

1) 売上高	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
	(来期の見通し)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
2) 売上単価	(前年同期比)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
	(来期の見通し)	1. 上昇	2. 不変	3. 低下
3) 収益状況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
4) 資金繰り	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
5) 借入難度	(前年同期比)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
	(来期の見通し)	1. 容易	2. 不変	3. 困難
6) 雇用人員	現在の従業員数	人(うち正規雇用者 人)		
	(前年同期比)	1. 増加	2. 不変	3. 減少
7) 貴社の業況	(前年同期比)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化
	(来期の見通し)	1. 好転	2. 不変	3. 悪化

【質問2】今期直面している経営上の問題点について、重要度の高い順に該当する番号を回答欄へご記入ください。

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 01 競争激化          | 10 経費の増加    |
| 02 消費・需要の停滞      | 11 人手不足     |
| 03 売上・受注減少       | 12 人手過剰     |
| 04 売上・受注単価低下     | 13 利益率低下    |
| 05 原材料・仕入価格上昇    | 14 代金回収難    |
| 06 原材料・在庫不足      | 15 資金繰り難    |
| 07 原材料・在庫過剰      | 16 新分野進出    |
| 08 店舗・生産設備不足・老朽化 | 17 その他:具体的に |
| 09 店舗・生産設備過剰     | ( )         |

回答欄

1位 \_\_\_\_\_

2位 \_\_\_\_\_

3位 \_\_\_\_\_

【質問3】燃料価格の高騰や再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)賦課金の上昇等により、電力料金は震災前の水準と比較しておよそ4割強高くなっています。これに関連して、以下についてお答えください。

1. 電力料金の上昇が貴社の経営へ悪影響を与えているかどうか、選択肢から1つお選びください。

- ① ( ) 悪影響がある      ② ( ) 現時点では悪影響はないが、この状態が続けば悪影響が懸念される  
 ③ ( ) 悪影響はない(今後もない見込み)

2. 【1. で①または②と回答した方】今後も高い水準の電力料金が続いた場合の対応について選択肢からお選びください。(複数回答可)

- ① ( ) 節電の実施など人件費以外のコスト削減      ② ( ) 料金の安い電力会社への変更  
 ③ ( ) 人件費の削減(時間外労働の削減)      ④ ( ) 販売価格への転嫁  
 ⑤ ( ) 省エネ性の高い設備に更新・導入      ⑥ ( ) 設備投資や研究開発の延期  
 ⑦ ( ) 操業・営業時間の短縮      ⑧ ( ) 対策を講じることは困難  
 ⑨ ( ) その他 ( )

3. その他、電力料金や節電に関するお考えについてご記入ください。

【質問4】現在の景況感、経営上の問題点についての意見又、行政等への要望についてご記入ください。